



認定特定非営利活動法人
コミュニティリーダー ひゅーる ぽん

2023(R5)年度 事業計画書

(令和5年4月1日~令和6年3月31日)

つながりの再興、そしてゆたらかな社会へ

この3月、未知のコロナウイルスの発生により直前で公演断念を余儀なくされた「ウタとソングのさかのぼり」の再演を行いました。3年前「この仲間で必ずいつか」と誓い合って別れたものの、この間、子どもたちは大きく成長し、また、それぞれの所属に変化があったりし役柄や出演者は変わってしまいました。しかし、作品に流れる「大切な思い」は会場に届いたように思います。

今思えばあっという間の3年間ですが、私たちを取り巻く環境、関係は大きく変化したことを感じます。表情が読み取りにくい日常、リモート授業や会議、会食の難しさ、などなど、人との接触を控え続けなければならなかった日々の積み重ね、あるいはそれらに対しての反発行為は、多かれ少なかれ、私たち相互の人間関係を変化させたことを感じます。さらに、感染への恐れが差別や誹謗中傷に及んだこともありました。過去最多と言われる24万人の不登校児童数や2年ぶりの増加となった自殺者数という報道にもつながるのかもしれませんが。「スマホ脳」を記されたアンデシュハンセン博士は、「哺乳類は、四週間孤独が続くと命を脅かす事態になる」ことから「身体をよく動かし社会的な関係を作ること」が大切だと述べられていますが、それがどれだけできた3年間だったのでしょうか。さらに、昨年2月からのロシアのウクライナ侵攻は今や世界を巻き込み、人と人の「社会的な関係」を育む難しさに拍車をかけました。「戦争」は、人間の行う最も愚かな行為であることは、すでに、前世紀に誰もが学び取ったはずであるのにです。

この3年間、この社会を、子どもたちはどのような思いで見えてきたのでしょうか。子どもたちの目に、この大人社会はどう映り、その中で、子どもたちはどんな夢と未来を描くのでしょうか。世界の指導者と言われる人たちの決断や行いは、民主主義国家にいる大人である私たち市民にとっても乖離しているように感じるのは私だけでしょうか。

未来に幸せを作るのは、決して指導者と言われる人たちではなく、私たち自身なのだと改めて思います。子どもたちにとって、豊かな希望を感じさせることのできる大人でありたいと強く思います。

さて、私たちは、大変ありがたいことに子どもたちの成長に関わらせていただいています。未来を創るのはこの目の前の子どもたち。その子らの成長を応援する私たちは、未来の最先端に関わらせていただいているのだと思います。私たちはこのことをとても大切にしたいと改めて思います。その私たちがまず最初に子どもたちに伝えていくのは、安心感に満ちた環境の中で、人に関わってもらったり、かかわったりする中で生まれることよりのよこび、つまり「交流感」です。これは生涯を通して、自身を成長させてくれる原動力になります。「できないこと」を「できるようにすること」も大切ですが、同時に「できる」「できない」だけで人を評

価値することは愚かなことでもあると感じます。人は、相互に関係を持ち生きること、できないことを助けてもらうこともできるし、またやってみようという気持ちを奮い起こすこともできます。つまり関係性の中で生きること、可能性はどれだけでも広げることができるのです。もちろん、人を傷つける関係性もあります。しかしながら、それを修正、克服し、豊かな関係性の中で生きていくこと、豊かな「社会的な関係」を構築し生きていくことが、私たち人間が人間として行う営みだと考えます。翻って、だからこそ、成長に携わる私たちは、豊かに優しく共感の中で、相互性の中で生きていける環境を、育ちの時も大人になってからも大切にしたいと考えるのです。

私の勝手な解釈かもしれませんが、「ひとは作業所」の寺尾先生はそうした生き方を「ゆたらか」という言葉で表現をされていたように思います。自分と相手、私たちと私たちを取り巻く環境、社会。それら全てが相互に豊かさを持って絡み合っ「ゆたらか」に流れていくことで幸せが紡がれていく…。そんな人間の内面の成長を大切にする、そんな時代に今こそあってほしい、そういう時代にしたいと強く思います。

私たちは今年、そうした思いを胸に、まずはワクワクしながらつながりの再興を行っていきます。子ども、人が育ち合うゆたらかなひゅーるぼん。私たちは、ここを起点に、ゆたらかな地域・社会づくりをあなたと共に進んでいきます。

重点活動

「ゆたらかな」活動をめざして、日々の活動の中から

1. つながる

…スタッフと通所者、スタッフ同士、通所者同士、ひゅーるぼんと他団体・地域・社会

2. 育ち合う

…それぞれの思いを真ん中に共に育ち合うこと、成長を感じあうこと、社会力の研究

3. 新たな一歩へ

…活動の見直しと進化、ゆたらかな時や関係を作る活動の実現と発信



1.運営に関わるプログラム

=その他、本法人の目的を達成するために必要な事業

今年度も引き続き、認定NPOとして、運営基盤の強化と安定につなげていきます。広報紙「うるとらのほし」の発行や日頃からの積極的な情報発信などを行っていきます。私たちの活動のことをより多くの方々に理解していただき、共感の輪をさらに広げていけるようにしたいと思います。また、力を注ぐべきところに集中できるように、今後3年間をかけて業務のスリム化を行います。そして、今の社会状況を踏まえ、NPOである私たちだからこそできることを考え、行動していきたいと思ひます。

各種運営会議

1 運営に関する会議

通常総会 6月に開催

顧問監事会 7月・2月に開催

理事会 5月・9月・12月・3月に開催

こども発達支援センター運営委員会 7月・2月に開催

保健委員会(保健・災害に関すること、BCP立案) 全体委員会6月・9月 定例委員会月1回

人権委員会(虐待・身体拘束マニュアル改訂と研修) 必要に応じて

運営委員会 月1回

業務セクション会議(総務・研修) 月1回

所長会議 必要に応じて開催

マネジメント会議 財務を中心とした運営を考える会議 月2回

合同ミーティング プログラム実施等に関わる会議 月2回

プログラム検討会議 年度後半に実施し総括と来年度計画立案

2 プログラム実施に関する会議

コミュニティスペース事業に関わるプログラム会議

まちづくり・ボランティア育成事業に関わるプロジェクト会議

自主事業プロジェクト会議

建築プロジェクト会議 未来の建築を考える会議

活動支援プログラム

1 Hull Fan

2 一般寄付

広報プログラム

- 1 WEBによる情報発信
- 2 広報紙「うるとらのほし」年2回発行（6月・12月）

研修

- 1 新人スタッフ研修
- 2 スタッフ研修（虐待防止・身体拘束適正化研修を含む）
- 3 他団体主催の研修等への参加

2.コミュニティスペースプログラム

こども発達支援センターでは、今年度も専門性を発揮していきながら、地域に開かれたセンターとして支援の必要なこどもはもちろん、広く地域の子育てを支援していく役割を果たしていきたいと思えます。そのためにも「ひよこぐみ」「きつずぐみ」の日常を大切にしつつ、その延長線上に地域の方との日常的なつながりをつくっていきけるようにします。また、働き方において、あらためて業務の見直しをおこなうことで、よりご家族に寄り添える時間とゆとりを生み出すことに加え、スタッフの業務の垣根を超えて連携を図りながら、子どもやご家族の支援を充実させていくことを大切にしていきます。

就労継続支援B型事業所ほっとスペースぽんぽんでは、通所される方の思いや願い、ご家族の思いを丁寧に聞き取ることに取り組みます。そして、私たちらしい大人の方の支援のあり方を形にするために、本人・家族・支援者の3者の思いを重ねていきたいと思えます。



こども発達支援センター事業 =こどもたちの育ちの支援に関わる事業

事業名	児童発達支援（ひよこ組） =児童福祉法に規定する障害児通所支援事業	事業費	45,481,226円
事業目的	2歳から就学前までの発達に支援の必要なこどもたちを対象とし、児童発達支援ガイドラインに基づき、生活や遊びの支援を行います。基本的な生活習慣の獲得や自立をはじめ、人・集団に対しての愛着心を育み、毎日をいきいきと過ごしていくための支援を行います。		
事業内容	<p>ひゅーるぽん独自の「安心感を基盤とした交流感・有能感・自己決定感の醸成」を基盤として、児童発達支援ガイドラインに基づき、「健康・基本的な生活習慣、あそび、人とのかかわり、認知・コミュニケーション、地域とのかかわり、家族支援」の領域を軸にした支援を行います。また、季節や文化を大切に発達支援を行います。</p> <p>(1) 活動計画 発達支援計画に基づいた支援を行います。</p> <p>(2) 行事予定</p> <p>4月：はじまりの会、こいのぼり製作 5月：個人懇談 6月：嘱託医健康診断 7月：七夕のつどい、プール開き、歯科検診 8月：水遊び、親子行事 9月：年長児お泊まり会、お月見クッキング 10月：運動会、中間個人懇談 11月：親子遠足、お芋ほり、焼き芋会 12月：お餅つき、冬のお楽しみ会 1月：お正月あそび、嘱託医健康診断 2月：節分、期末個人懇談 3月：すだちの会</p> <p>※その他、年間を通して、参観や保護者勉強会、交流会などを実施</p>		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、ボランティアなど		



事業名	放課後等デイサービス事業（きつ組） ＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業	事業費	16,243,653円
事業目的	障がいのある子どもたちに対して、子どもの思いや願いをくみ取り、大切に育むことを活動の基本とし、安心感を基盤に人や社会とつながり、いきいきと自己の力を発揮していけるよう育ちの支援を行なっています。		
事業内容	<p>○オープンスペース事業（10:00-13:00） 不登校の子ども等に対する、午前中の居場所作りと、育ち支援の場。</p> <p>○放課後等デイサービス事業（13:00-17:45） 放課後等デイサービスのガイドラインに沿った、発達支援。</p> <p>(1) 活動計画 個別支援計画に基づき、自立した日常生活を営むために必要な支援を行うとともに、安心感を基盤に、交流感、有能感、自己決定感など社会力を高める支援を行います。</p> <p>(2) こども発達支援センターとして、専門性を生かし地域社会で果たす役割を考察しながら、学校・関係機関・医療機関等との連携・協働による支援を行います。</p> <p>(3) 行事予定</p> <p>5月:保護者交流会(合同)</p> <p>6月:外出プログラム、個人懇談(個別支援計画の確認)</p> <p>8月:キャンプ、夏休み工作教室</p> <p>10月:ハロウィンパーティー、外出プログラム</p> <p>11月:焼き芋会、運動会</p> <p>2月:クリスマス会、もちつき大会、外出プログラム</p> <p>1月:初詣、書き初め大会、凧揚げ</p> <p>2月:節分、外出プログラム、</p> <p>3月:旅行、お別れ会</p> <p>※その他、毎月誕生日会を実施。毎週園庭を開放した地域交流プログラムを行います。</p>		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、ボランティアなど		



事業名	保育所等訪問支援事業 ＝児童福祉法に規定する障害児通所支援事業	事業費	2,964,479円
事業目的	保育所等において、発達に支援が必要な子どもが集団生活に適応できるよう継続的に専門的支援を行います。		
事業内容	保護者との契約に基づき個別支援計画を作成し、対象児が通園する保育園等を訪問し、直接・間接支援を実施します。		
実施予定	通年		
実施体制	保育所等訪問支援事業担当スタッフ		

事業名	障害児相談支援事業 ＝児童福祉法に規定する障害児地域支援事業 障害児指定特定相談支援事業 ＝障害者総合支援法に規定する事業	事業費	3,601,279円
事業目的	地域の発達に支援が必要な子どもが自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう相談支援を行います。		
事業内容	(1)相談の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な育ちの支援に関する相談 ・通所や児童福祉サービスに関わる相談 ・豊かな地域生活をおくるための相談 ・他機関（行政、医療機関、保育園、幼稚園、学校等）との連携 (2)障害児支援利用計画、サービス等利用計画の作成		
実施予定	通年		
実施体制	相談支援担当スタッフ		



事業名	初期支援事業(広島市障害児療育等支援事業を含む) ＝障害者総合支援法に規定する事業	事業費	2,982,236円
事業目的	<p>子どもの育ちについて「気になる」ことを早期に相談することで、ご家族が前向きに子育てにむかえる支援を行います。</p> <p>広島市障害児療育等支援事業のうち「療育支援施設事業」の実施 広島市より委託を受け、障がいのある子ども等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられる療育機能の充実を図り、地域の発達に支援が必要な子どもたちの福祉の向上を図ります。</p>		
事業内容	<p>(1)子育てサロンを毎週火曜日に開催 発達の気になる親子だけでなく、地域の子育て支援スペースとして対象を広げます。地域のNPOをはじめとしたグループと連携し、在宅のこどもたちへ「文化」を提供する機会を作ります。</p> <p>(2)0～2歳児を対象とした集団支援「ぴよぴよくらぶ」を月2回から毎週1回程度に頻度をあげるなど、支援の充実を検討、実施します。</p> <p>(3)緊急的な要支援家庭への家庭訪問フォロー</p> <p>(4)NPO法人e-子育てセンターの「ひろばKUSUKUSU祇園・佐東」への出張発達相談の協働</p> <p>(5)幼稚園や保育園への施設支援</p>		
実施予定	通年		
実施体制	発達支援センタースタッフ、ボランティアなど		

事業名	こども発達支援センター自主事業 =自主事業	事業費	0円
事業目的	こども発達支援センターとしての専門機能を活かし、地域の中核的な発達支援施設としての役割を果たします。		
事業内容	<p>(1) 児童発達支援ひよこぐみ療育終了後の一時預かり事業 発達支援時間以降の一時預かり「ゆうやけひよこ ちっち」を実施し、家族が笑顔で生活できることを応援します。</p> <p>(2) 児童発達支援ひよこぐみ退園後のアフターフォロー事業 「こっこくらぶ」…幼・保育園に通う保護者対象 「こけこっこくらぶ」…就学後の保護者対象 今年度は集団でのアフターフォローが再開できるようにしていきます。</p> <p>(3) 安佐南区自立支援協議会 各部会への参加 地域のさまざまな機関や児童発達支援・放課後等デイサービス事業所との連携を図り、地域全体の発達支援の質を高めていくことをめざします。</p>		
実施予定	通年		
実施体制	発達支援センタースタッフ		

就労継続支援B型事業＝障がいのある人等をはじめとする成人の地域生活ならびに社会参画支援に関わる事業

事業名	コミュニティほっとスペースぼんぼん(就労継続支援B型事業) ＝障がいのある人等をはじめとする成人の地域生活ならびに社会参画支援に関わる事業	事業費 15,565,302円
事業目的	18歳以上の障がいのある人の就労、社会参画ならびに豊かな地域生活の支援を行うことを通して、人や社会とつながる喜びを感じながらいきいきと豊かに生きていくことを支援します。	
事業内容	<p>(1) 人や社会とつながっていきいきと豊かに生きる社会生活支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことの支援 アート製品づくり、製品販売、作業活動を通じた自分らしさを発揮する支援、および自立（自律）・社会参画支援。 ・表現活動の支援 アート制作の支援。音楽プログラムの実施。演劇活動参加の支援。アートを通じた社会参加支援。 ・本人主体の活動 レクリエーションの企画・実施、月1回のクッキング等の企画、花壇管理、活動方向の作成、仲間だけで過ごす「みんなの時間」の実施、など。 ・外部とのつながり 委託販売の方との、売り上げ報告会。お客さんとの交流。アートレンタル事業での交流、人権擁護センター「ほっとさん」の相談の実施（6回）。外部関係者との連携。 アート作品の展示やイベント、出張販売への参加(学園祭での作品展示と出張販売) <p>(2) あたたかなまちづくりの拠点となる活動 ギャラリー・カフェ・ショップを活用した地域向けプログラムの企画の実施。日常を開いた交流の場づくりの実施。 ツキイチワークショップ（日常活動の延長、オープンアトリエ等の実施）、ギャラリー展示を通じた交流企画など</p> <p>(3) 利用相談や地域生活に関わる相談、利用希望者の見学・体験、実習生、ボランティア・アートサポーター、見学の受け入れなど。</p>	
実施予定	通年	
実施体制	スタッフ、ボランティアリーダー、アートサポーターなど	

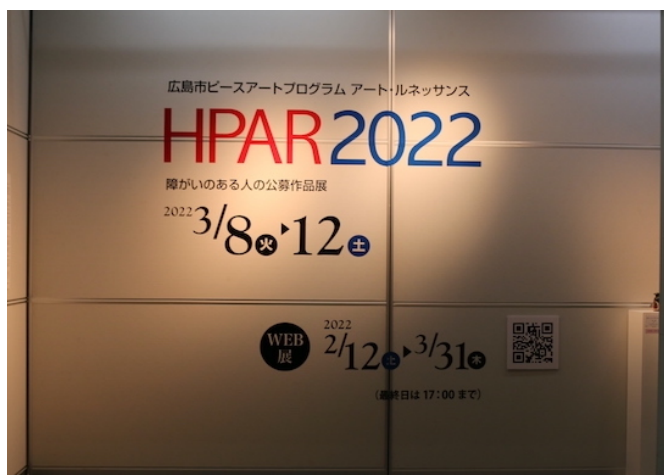


3.まちづくり・コミュニティボランティア育成プログラム

3-1 アートによるまちづくりプログラム

今年度も障がいのある人のありのままの表現を大切にすること、またその表現に寄り添い、創作活動を共にするアートサポーターがつながり、高まり合うことができるよう、障がいのある人の様々な表現活動を応援するプログラムを実施します。今年度新たな内容で実施するアート・ルネッサンス2023では、これまでの部門やサイズの規定の幅を広げ、より多種多様な作品を募集、展示できるようにしていきます。それに加え、作品を通して創作現場の空気感やサポーターとのやりとりの過程なども身近に感じられるように工夫しながら、多様なアートや表現活動の形を伝えていきます。それをきっかけに人と人とがつながり、会場での作品展だけにとどまらず、彼らのアートの魅力や可能性が社会に広まり、浸透していく様なアプローチを様々な展開していきます。

事業名	広島市ピースアートプログラム アートルネッサンス 2023 =まちづくりに関わる事業	事業費	3,130,000円
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由で多様なアート、さまざまな表現のあり方、新しい可能性を広げます。 ○ アーティストと社会がつながる社会参画の場とします。 ○ 現場で制作するアーティスト、サポーター同士のつながりを広げます。 ○ アーティスト、サポーターの表現活動の広がり、高まりを支援します。 		
事業内容	障がいのある方と支援する方を対象とした、公募作品展の開催。 これまでの部門を改め①自由制作部門②共同制作部門を新設しより自由で多様なアート、さまざまな表現のあり方、新しい可能性を広げられる展覧会を行います。		
実施予定	2023年9月23日(土)～10月1日(日)		
実施体制	ひゅーるぽんスタッフ、アートサポーター、広島市		



事業名	幸せProducts. =まちづくりに関わる事業	事業費	1,479,200円
事業目的	○社会の中で障がいのある人のアートの普及 ○障がいのある人の社会参画を促進 ○アートをまちづくりに活かす新しい取り組み・製品の開発		
事業内容	(1)アートレンタルの窓口・事務局 (2)デザインプロジェクト（障がいのある方のアートや表現を使った製品の開発、障がいのある方の文字やパターンを使った製品化の推進、企業とのコラボ企画の提案など） (3)アートの社会化（アートと人や社会をつなぐプログラムの開発、提案。）製品開発・普及のための参加型作品展の開催など。 (4)ネットワークの広がりと深化		
実施予定	通年		
実施体制	デザイン専門スタッフ、アートサポーター、企業など		

事業名	アートスペース =まちづくりに関わる事業	事業費	572,000円
事業目的	○障がいのある人のアートを支援するノウハウと資源を活用し、アートに取り組む環境を提供していきます。 ○地域へ開かれたアート教室を開催し、制作環境を高めていきます。 ○アーティストの発掘とアートの社会化を目指していきます。		
事業内容	(1) アートスペース絵画の開催。週1回。アーティストが刺激しあい、のびのびと作品づくりを行える制作環境の場を提供します。 (2) アートスペース陶芸の開催。月2回。外部より専門の講師を招き、自由な発想で個性的な作品づくりを行います。 (3) 障がいのある方・地域のニーズに応じて、外部よりアートの専門家を招き、アートスペースを開催します。 (4) 県内外の公募展への応募、作品の展示機会の提供等、作品を通じた社会参画を行います。		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、外部講師		

事業名	令和5年度広島県障害者文化芸術活動支援事業 広島県アートサポートセンター ＝まちづくりに関わる事業	事業費	8,040,000円
事業目的	<p>○支援者、関係者の表現活動に関する支援スキルがアップし、障がいのある人が表現活動に参加できる機会を増やします。</p> <p>○支援者、関係者のネットワーク機関を広げよりサポート体制を強化します。</p> <p>○広島県内で、多様な表現の裾野の拡大を目指します。</p>		
事業内容	<p>○広島県アートサポートセンターの運営</p> <p>○普及啓発・情報発信事業の実施</p> <p>○人材育成事業の実施</p> <p>○創作活動支援事業の実施</p> <p>○その他障害者文化芸術活動の振興に資する事業</p> <p>○障害者文化芸術活動に関する相談対応</p> <p>○県が主催する障害者の文化芸術活動に関する事業の連携協力</p>		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、専門家協力委員、アートサポーター		

事業名	アートサポートセンターひゆるる（自主事業） ＝まちづくりに関わる事業	事業費	95,600円
事業目的	<p>○アートによるまちづくり事業と協働し、社会への普及啓発を行います。</p> <p>○障がい者アートの普及・発展に向けた取り組みを行います。</p> <p>○障がい者アートを取り巻く社会情勢を踏まえ、新しい視点を提案します。</p>		
事業内容	<p>(1) アート活動に関する、相談や協働の窓口になります。</p> <p>(2) 必要に応じ、各施設・団体との協働で事業を実施します。</p> <p>(3) アートスペース事業のサポートをします。</p> <p>(4) 障害のある人とともに創る演劇事業の協働・サポートをおこないます。</p>		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、専門家協力委員、アートサポーター		

3-2 地域・社会啓発つながりづくりプログラム

コロナ禍でできることに制限があり、やりたい事が全てできる状況ではない中ですが、ひゅーるぽんのイベントを楽しみにしてくれている保護者や地域の方々がたくさんいることを感じた昨年度でした。今年度も、みなさんに協力していただきながらさまざまなイベントを計画していきたいと思います。また、飲食ということで自粛してきた「みんなおいでや」も社会の状況を踏まえ利用者の声を聞きながら復活させていきたいと思います。

日常的なつながりに関しては、子どもたちと地域のゴミ拾いや保護者の方との園庭整備を定例化するなど、日常的に継続して行っていけることを計画し取り組んでいきたいと思います。そうした場から、新たな意見を拾ってさらに広げ、「人と人との繋がりの中に生まれる相互扶助の関係」を大切にし、困った時に助け合える関係性をつくっていきたいと思います。「地域とひゅーるぽん」「スタッフと保護者」「スタッフと利用者」「保護者と保護者」つながる糸がいくつも重なり、大きく強く切れないコミュニティを目指したいと思います。

事業名	地域協力プログラム =まちづくりに関わる事業	事業費	0円
事業目的	地域行事の賑わいに貢献し、地域住民とつながりを深めます。		
事業内容	公民館まつり、区民まつり等地域行事への協力を行います。		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、ボランティアなど		

事業名	地域交流プログラム =まちづくりに関わる事業	事業費	80,000円
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ ひゅーるぽんと地域・人がつながる場をつくること、そしてそのつながりを広げ深めます。 ○ これらのプロセスを通して、単発的な活動でのつながりから日常的なつながりが生まれるような工夫を凝らし、「共に生きていく」地域づくりを目指します。 		
事業内容	<p>新型コロナウイルス感染症の発生状況を見ながら、</p> <p>(1)地域食堂「みんなおいでや」 スタッフとボランティアが協働して地域の人へ会食やイベントを通した集いの場を月1回程度作ります。</p> <p>(2)つながろうプロジェクト 地域の方とのつながりをつくり深める、交流イベントを企画・開催します。</p> <p>(3)地域で活動する他団体やサークルとの協働の輪を広げます。</p> <p>(4)地域の中にあるひゅーるぽんの役割を発信します。</p>		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、ボランティアなど		

3-3 ボランティア育成プログラム

日常的にボランティアが活動参加できるきっかけづくりを行います。そのために、ホームページ等での情報更新や地域の学校への広報を定期的に行い、学生にとって「いつでも」「気軽に」ボランティア活動できる場として、広く情報発信していきます。

また、今年度はボランティア活動に参加する学生への関わりに力を入れ、ボランティア同士の横のつながりづくりや、活動後の振り返りなどを通して次の活動への期待感を育み、何度でも参加したくなるような環境づくりをしていきたいと思えます。

事業名	ボランティアセンタープログラム ＝ボランティアおよびボランティア団体の参加・育成支援、そのための助言に関わる事業	事業費	320,000円
事業目的	○ボランティアに関心のある人々を巻き込みながら、学び・学びあいの場を提供していきます。 ○私たちが展開する様々なプログラムに参加することを通じて、ボランティア・市民活動について相互に学び合う場を作ります。		
事業内容	ボランティアの受け入れと育成 (1)常時ボランティアの積極的な受け入れを行います。 (2)ボランティア募集ポスターの配布やホームページからの直接申し込み受付をすることで、学生の参加のしやすさにつなげます。 (3)ひゅーるぽんでの活動を通して視野を広げていくことを目的に「学生ボランティア体験プログラム」を実施します。 (4)継続的に参加していただけるよう定期的にメール配信による、活動情報や行事の案内を行います。		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、ボランティア、地域団体など		

事業名	広島市災害ボランティア活動連絡調整会議プログラム ＝緊急・災害時の支援に関わる事業	事業費	0円
事業目的	「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」構成団体として、協働しながら災害に備え、災害時にはその対応にあたります。		
事業内容	(1)定例会議への参加 (2)災害ボランティアセンター開設・運営シュミレーション等のセミナーへの参加 (3)その他		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ、協働団体		

事業名	外部への講師・委員派遣・協力事業 ＝ボランティアおよびボランティア団体の参加・ 育成支援、そのための助言に関わる事業	事業費	0円
事業目的	様々な人が共に生きやすい社会を実現していくために、地域の団体や機関との協働を進めます。		
事業内容	(1)共催・後援事業の実施 (2)要請に応じ学校の授業や講演会等への講師派遣 (3)地域の関係機関・委員会への委員派遣など		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ		

事業名	職場体験・実習生等の受け入れ ＝その他、本法人の目的を達成するために必要な事業	事業費	0円
事業目的	教育現場と連携し、職場体験・実習受け入れを行い、学生に学びの場を提供します。		
事業内容	学校等からの要請に応じて積極的な受け入れを行います。		
実施予定	通年		
実施体制	スタッフ		



2023(令和5)年度予算概要

(単位：万円・%)

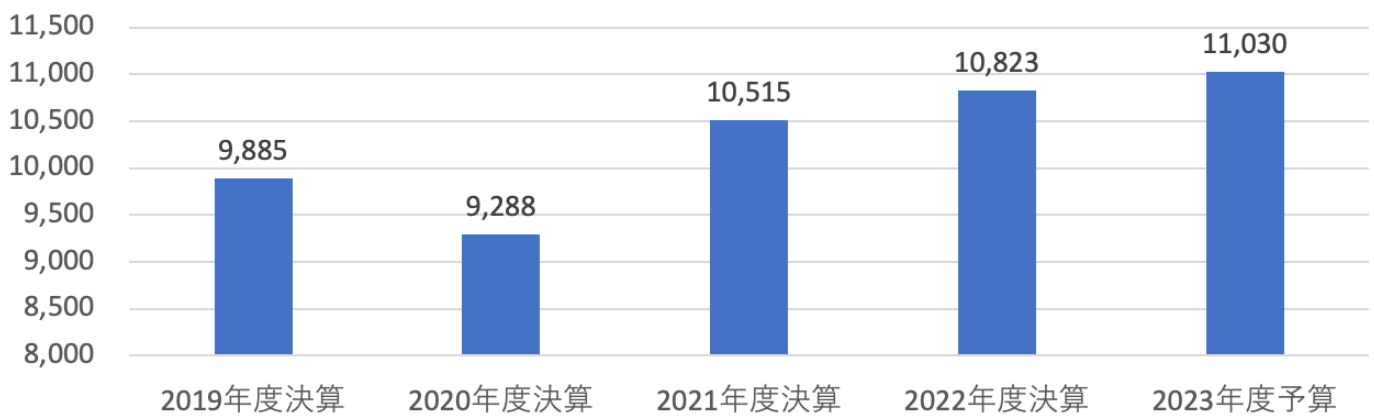
事業名		2023年度 予算(A)	2022年度 予算(B)	増減 (A-B)	対前年比
収 益	正会員・賛助会員受取会費	80	80	0	100%
	受取寄付金	143	120	23	119.2%
	受取助成金・補助金	61	61	0	100%
	障害福祉サービス等事業収益 (給付費)	11,030	10,502	528	105%
	受託事業収益	1,054	804	250	131.1%
	自主事業収益	461	472	△ 11	97.7%
	その他の収益	80	50	30	160%
	収益計(1)	12,909	12,089	820	106.8%
費 用	人件費	9,140	8,785	355	104%
	人件費(賞与)	474	0	474	—
	その他経費	2,852	2,776	76	102.7%
	内、減価償却費	538	523	15	102.9%
	費用計(2)	12,466	11,561	905	107.8%
経常増減額(3)=(1)-(2)		443	528	△ 85	83.9%
資 金 増 減	減価償却費の足し戻し	△ 538	△ 523	△ 15	102.9%
	借入金等の返済による支出	740	712	28	103.9%
	保険積立金の支払いによる支出	178	178	0	100%
	将来的な修繕への積立	60	60	0	100%
	資金増減(返済/積立)計(4)	440	427	13	103%
現預金増減額(5)=(3)-(4)		3	101	△ 98	3%
債券返済(6)		112	119	△ 7	94.1%
当期現預金増減額(7)=(5)-(6)		△ 109	△ 18	△ 91	605.6%

【収益】

- ・ アート・ルネッサンスの予算増に伴い受取寄付金の目標増。
- ・ 障害福祉サービス等事業収益は、処遇改善加算を予算化することで増収見込み。直近4年度実績と比較しても最大値（以下グラフ参照）。開所日は241日（前年度よりも4日減）
- ・ 受託事業収益の内訳は以下の通り。
広島県障害者文化芸術活動支援事業 804万、広島市ピースアートプログラム 250万
- ・ その他収益として広島市社会福祉施設等物価高騰対策支援事業支援金（30万）を予算化。

(単位:万円)

障害福祉サービス等事業収益 5期比較



【費用】

- ・ 月あたりの職員数の増加や前年度からの基本給ベースアップにより人件費予算増。
正規（フルタイム）スタッフ 19人→19人、準・協力（パート）スタッフ 8人→9.25人
- ・ 賞与については処遇改善加算を原資とし支払予定。
- ・ 前年度の実績に基づき、その他経費を予算化。増加幅の大きかった光熱費等は物価高騰の影響を反映。また、広島市の受託事業分の予算増。
- ・ 保護者や地域との交流プログラムの予算をコロナ以前の水準へ変更。

【資金増減】

- ・ 公用車の長期リース料の支払（55万）の追加。2022年度は太陽光発電に関する借入金の返済（27万）があり、増減の+28万はその差額。
- ・ こども発達支援センター建築時の債券。2023年度分112万円は定期預金残高を原資とし償還予定。